

令和元年第13回大竹市教育委員会

令和元年第13回大竹市教育委員会を、令和元年12月20日（金）15時30分から大竹市役所4階第2会議室において開催した。

1 出席及び欠席委員の氏名

教育長	小 西 啓 二	出席
1 番	畠 中 透	出席
2 番	新 矢 佳 弘	出席
3 番	中 田 美 穂	出席
4 番	池 田 良 枝	出席

2 出席職員の氏名

(総務学事課長)	真 鍋 和 聡
(総務学事課)	重 安 千 陽
(〃)	中 川 香代子
(〃)	瀬 川 隆 司
(〃)	桑 原 崇 志
(生涯学習課長)	柿 本 剛
(生涯学習課)	安 藤 好 博
(〃)	三 井 佳 和
(〃)	坂 井 渉

3 会議に付した議案及び議決・可否数等

教育長 小西 啓二 が議事進行。

議事録署名委員の指名 中田 美穂

日程第1 会期決定について 本日1日限りと決定。

日程第2 議案第30号 大竹市青少年問題協議会委員の委嘱について

事務局説明

大竹市青少年問題協議会の委員について、大竹市議会、大竹青年会議所、大竹市民生委員児童委員協議会において役職の交代があったため、大竹市附属機関設置に関する条例の規定に基づき各機関・団体からの推薦があった方4名に、新たに委員を委嘱するもの。青少年問題協議会は、青少年に関する総合的施策を検討するための調査・審議、また、施策を実施するための関係機関相互の連絡調整を図ることを目的に設置されている。現在23名の方に委員を委嘱しており、毎年度1回協議会

を開催している。昨年度は２月下旬に開催し、市内の学校の補導状況や学校での状況報告、各団体からの活動報告、次年度に向けての青少年施策などを協議していた。任期については、補欠委員の任期は前任者の残任期間となるので、令和２年１月１日から令和３年６月３０日までとなる。

主な質疑等

（新矢委員）４名が交代することだが、前任者はどなたか。

（事務局）前任者の役職及び氏名について回答。

議案第３０号採決 全員が賛成し原案どおり可決

日程第３ 議案第３１号 大竹市社会教育委員の委嘱について

事務局説明

社会教育委員１１名のうち、現職が一般社団法人大竹青年会議所副理事長である委員１名について、役職の交代があったので後任の者を新たに委嘱するもの。任期は令和２年１月１日から令和３年５月３１日までとなる。なお、社会教育委員の主な職務としては、社会教育に関する諸計画を立案すること、定時、又は臨時に会議を開き、教育委員会の諮問に応じ意見を述べること、必要な調査研究を行うこと等が社会教育法に定められている。

主な質疑等

（新矢委員）役職の交代の理由について伺う。

（事務局）前任者が当該団体の理事長に就任するためである。

議案第３１号採決 全員が賛成し原案どおり可決

日程第４ 報告第３４号 大竹市奨学金貸付審議会委員の委嘱について

事務局説明

大竹市奨学金貸付審議会を構成する委員に職務者の交代があったので新たに委嘱する必要が生じたが、緊急やむを得ないと認め、教育長において処理したもの。奨学金貸付審議会の任務は、奨学金の貸付等に関する事項についての審議である。この度、委員の構成のうち民生委員協議会長が、３年に１度の民生委員の一斉改選により交代した。このため、新会長を当該役に就いた１２月１日から委員として委嘱したものである。

主な質疑等

（畠中委員）任期は当該職に在任する期間とある。民生委員の任期との関係について伺う。

(事務局) 民生委員は3年に1回ずつ改選がある。会長が代わった場合は後任の者を審議会委員として委嘱することになる。

報告第34号 報告のとおり承認

日程第5 協議・報告事項 令和元年度広島県児童生徒の体力・運動能力調査結果について

事務局説明

資料「令和元年度広島県児童生徒の体力・運動能力調査結果」について説明する。調査は小学校5年生、中学校2年生が対象である。1の「調査項目」は、順に握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20メートルシャトルラン。持久走は中学生が対象である。50メートル走、立ち幅とび。ソフトボール投げは小学生、ハンドボール投げは中学生が対象である。なお、中学校においては20メートルシャトルランと持久走は選択だが、大竹市では両方実施している。

小学校5年生・中学校2年生の調査結果表では、それぞれ令和元年度における大竹市、広島県及び全国の平均値、大竹市と県との差、平成30年度における大竹市の結果等を表している。調査は概ね4月から6月にかけて実施することになっており、極端に言えば4月に実施する学校と6月に実施する学校があるため、若干体力的な差が生じるかもしれない。練習をどれだけ行うかは学校によって違うが、提出されたものが公式の記録となっている。体力合計点を見ると、大竹市は小学校5年生の女子だけが広島県平均を下回っている。また、小5女子と中2男子が国の平均を下回っている。全国的に体力は向上傾向と言われているが、一番のピークは1985年であった。特にソフトボール投げについては、令和元年度における小5男子の全国平均が23.72mだが、ピーク時に比べて6mくらい低下しているという情報もある。

2の「大竹市の児童生徒の結果から」では、広島県平均を上回っている項目と同平均を下回っている項目を表している。特に中2男子については、昨年度はすべての項目で県平均を下回っていたが、今年度は4項目で上回った。昨年度に続いて下回っている項目については、大きな課題だと考えている。

3は「今後の取組」である。そもそもの目的は県や国と比較するだけではなく、アセスメントとして実態を調査して、弱いところは補強し、改善して体力を向上していくことである。このことを踏まえ、各学校が体力づくり改善計画を作成し、重点課題となる項目について取組を実施していくことになる。これまでの取組の例としては、廊下等に設置したハンドグリップの日常的な活用、体育の授業の中での短・長距離走やボール投げ等の計画的な導入、体力づくりの家庭学習などがある。ボール投げについては、最近は日常的にボール運動をしない子供も多いということで、投げ方の練習になるような羽根の付いたような道具を使用している小学校もある。子供の二極化が進み、家庭ではゲームやスマートフォン等を利用して、学校の体育の授業時間しか運動しない子もいると思われる。このため、まずは体育の時間にお

ける準備運動や補助運動での補強を行い、併せて日常における補強として、先ほど挙げたハンドグリップ等の活用や外遊びの奨励について取り組んでいく。なお、特定の項目や部位だけを鍛えることで記録は伸びるだろうが、身体全体を満遍なく鍛えないとバランスの良い体力はできない。そのあたりを留意しながら補強していくことが大事だと思っている。

主な質疑等

(新矢委員) あくまで大竹市の記録だけのことを言えば、4月早々に体力テストを実施するのではなく、6月に実施すればデータが良くなるのではないか。実施時期について、学校に指示してはどうか。

(事務局) 学校もいろいろな行事があり、通常の体育の授業も行わなければならない。このため、学校は都合のよい時期に計画的に実施している。もちろん全国や県と比べて大竹市が良く見えるのはよいと思うが、課題を把握し、それを改善していくというアセスメントが主たる目的なので、特に学校へ指示はするつもりはない。

(池田委員) 小学校1年生から毎年、全員がある程度の項目で体力テストをしていると思う。その個の伸びというものを学校がどういうふう to 把握をし、返しているか分かっていたら教えていただきたい。また、ボール投げと握力はずっと課題に挙がっている項目である。功を奏している学校の事例など、他の市町村も含めてあれば併せて教えてもらいたい。

(事務局) 個の伸びについては、1年生から体力テストに準じたような測定を行っており、前年度との比較はできる。また、1学期に測定した結果を基に改善計画を立てて取り組んで、目標を決めて3学期にもう一回測定している学校もある。

功を奏した事例等については、学校ごとに把握はしていない。ただ、測定の仕方が良くわからずに記録が出ないこともあるので、県から資料をもらって、それに基づいて練習や記録を測定するという取組はある。また、先ほど説明したように、大竹小学校では、独特の羽根のついたような、スタンダードな投げ方をしないと飛ばない道具を使って練習している。これは他の学校も使っているかもしれない。ただ、使っている学校で記録が伸びているとか、体力や巧み性・筋パワーが伸びたかどうかまでは検証できていない。

(池田委員) 二極化を防ぐために、外遊びはとても大事になってくると思う。市内の学校において、外遊びの時間を確保するための取組はあるか。

(事務局) 学校によっては縦割りでも外遊びの時間を設けている。無い学校では、先生によるところがあり、大休憩や昼休憩等に子供と一緒に外に出て遊ぶ先生もいれば、なかなかそれが難しい先生もいる。先生が連れて出る

と子供も外に出る。実態としては、学校や先生個々に任されている。

(中田委員) 調査で良い数字が出ることに越したことはないが、ここで補うべき点を把握し、次の年の体力向上につなげていくことがとても大事だと思う。体力テストを実施して、子どもが記録書を持って帰ってくるまで期間が開くことがある。全体的な底上げのためには、年間を通じた継続的な取組が必要と考える。また、大竹小学校のおうち体育や、校内の各所に用具を置く取組のように、ちょっとした遊びの中から体力つくりにつなげていくことが大事だと思う。小方学園においては、学校が小方ヶ丘に上がったことによって、保護者の送り迎えがとて多くなったような気がする。そうしたことから、歩かないことによる体力低下もあるのではないか。大竹は学校の数も少ないので、学校によって差の出ないよう、どの学校でも同じように取組ができればと思う。

(事務局) 体力テストの後にできるだけ早く記録を返し、子供の意欲を持続させることが体力向上の秘訣だと思う。ご意見を参考にして、身近で継続して行える良い取組があれば広げていきたい。

(畠中委員) 教育委員会ができることとしては、運動ができる機会や場所の提供が考えられる。昔はキャッチボールや、女の子だったらゴム飛びなどをよくやっていたが、そういうことができる場所を提供すれば、多少体力もついたりするのではないか。一方で、学校の先生方についての課題もあるだろうが、そこは見えない部分なので、先生方自らの取組が求められる。特に中学校の男子については、体育の先生によってずいぶん違ってくるので、その先生がいかに熱心かということが一番大事だと思う。子供たちは子供たちで、校庭でドッジボールなどを行う機会が与えられたら良いと思う。

(教育長) 今、時間が無い、場所がない、人がいないなどと言われている。遊びの空間の確保については、学校だけでは難しいと思うので、教育委員会サイドでもできることを考えていきたい。

(新矢委員) 今子供たちは、大休憩や昼飯後に、外でどんな遊びをするのか。また、全員がグラウンドで遊んでいるのか、校内に居る子の方が多いのか、状況を教えてほしい。

(事務局) ブランコや滑り台、ジャングルジム等の遊具で遊んだり、鬼ごっこ、や縄跳び、ボール遊びなどをしている。

(教育長) なかには図書館に行って本を読みたい子供もいるので、遊びの強制はできない。ただ、外で遊んでいる子供は結構多いと思う。

教育長（小西 啓二）

以上をもって本日の議事日程をすべて終了したことを告げ，閉会を宣言した。

16時10分散会